

令和6年度 近畿大学大学院産業理工学研究科 博士前期課程
社会環境科学コース 2月入試 入試問題(専門:造形計画)

次項以降の問題に対し別紙[解答用紙その1]および[解答用紙その2]に解答しなさい。

なお、[問題用紙]と[解答用紙その1]および[解答用紙その2]を切り離してもよいが、すべてに受験番号および氏名を記入し提出すること。

受験番号

氏名

問題用紙

受験番号

氏名

【問題その1】

以下の①～③の建築物から1つを選択して、ポストモダニズム的視点で論評してください。
解答は、400文字以上600文字以下の文章とし、**解答用紙その1** に記述してください。

- ① トゥーゲントハット邸：ミース・ファン・デル・ローエ
- ② 国立西洋美術館：ル・コルビュジエ
- ③ ジョンソン・ワックス社事務所棟：フランク・ロイド・ライト

【問題その2】

以下の④～⑥の建築物から1つを選択して、ル・コルビュジエの影響を勘案して論評してください。
解答は、400文字以上600文字以下の文章とし、**解答用紙その2** に記述してください。

- ④ 神奈川県立美術館：坂倉準三
- ⑤ ヴェネツィア・ビエンナーレ日本館：吉阪隆正
- ⑥ 東京文化会館：前川國男

解答について

建築や空間のデザイン思考を評価するための設問であり、それぞれ自由な論評を求めているため 1 つの具体的な解答を提示することはいたしません。

[問題その 1]

近代建築の三大巨匠の代表作であるトゥーゲントハット邸は 1930 年、サヴォワ邸 1931 年、ジョンソン・ワックス社事務所棟は 1939 年の竣工と今から 100 年近く前の作品ですが、一般に言われているモダニズム建築としての歴史的な記録としての理解だけでなく、現代の建築デザイン的な視点から考察すべき大変興味深い作品です。そこで、モダニズムとは違うポストモダニズム的視点から論評することを求めています。

[問題その 2]

ル・コルビュジエ氏の弟子である、坂倉準三氏・吉阪隆正氏・前川國男氏の代表作を取り上げています。一般的には、神奈川県立美術館およびヴェネツィア・ビエンナーレ日本館は、無限成長美術館の回転運動の影響、東京文化会館は軸線や素材など直接的に対面する国立西洋美術館への具体的な建築設計上の応答が認められます。